

これからの企業価値と ダイバーシティの関係

株式会社イー・ウーマン代表取締役社長
株式会社ユニカルインターナショナル代表取締役社長

佐々木 かをり



アメリカ最大の経済団体「ビジネス・ラウンドテーブル」が2019年8月18日、「Statement on the Purpose of a Corporation」（企業の存在目的についての声明）で、企業の存在目的は全てのステークホルダーズのためであるとして、株主の利益を最重視する「株主第一主義」の企業経営を見直す声明を発表。181名のCEOの署名がウェブサイトに掲載された。代表は、JPモルガン・チェースのジェイミー・ダイモン会長兼CEOだ。その声明には、主に五つのポイントが書かれている。顧客に価値を提供する。従業員への投資をする。サプライヤーとフェアで倫理的に取引する。地域に貢献する。株主にとっての長期的価値を追求する。この声明に世界は「やっとアメリカも」と驚いたが、これが今の経済界が置かれている現実なのである。声明で掲げられたポイントはどれも当たり前のことと思えるが、これらは世界の大企業たちが、世界の経済関係者たちが、長年輕視してきた項目だということでもある。

では、これからの企業価値は、何をどう見ればよいのか。

もう、財務情報だけでは企業価値が語られないということは明らかだ。非財務情報の公開も企業価値判断にとって重要となり、SDGsやESG投資という言葉が聞かれるようになった。統合報告書には、いかに長期的